

式 辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんは新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休校で、当たり前だった中学校生活を突然失い、そんな中で高校受検という大きな節目を乗り越えて今日を迎えました。

皆さんが過ごした大変な時間、応援された御家族の思い、その重みに敬意を表します。そんな皆さんの本校への入学を心から歓迎します。

皆さんの高校生活がスタートするにあたり、二つのメッセージを贈りたいと思います。

最初は本校の教育目標

「確かな学力を備え、明朗闊達で、多様な人々と協働して学ぶことができる健全で品位ある人間の育成」

についてです。

中に闊達という言葉があります。闊達の闊は「門がまえに活発の活」、達は「達成するの達」です。意味は「度量が大きくて、小さな物事にこだわらないさま」。つまり、明朗闊達は「明るく朗らかで心の広いさま、度量の大きい些事（さじ）にこだわらないさま」という意味になります。

ところで、名古屋大学の松尾清一総長が昨年度の入学式の式辞に次のような話をされています。

“名古屋大学は21世紀に入ってから6名のノーベル賞受賞者を輩出するなど、学術の領域で数多くの素晴らしい研究者を送り出してきました。また、経済界でも、数多（あまた）の素晴らしいリーダーを生み出しています。この理由のひとつとしてよく言われているのが、名古屋大学の伝統である「自由闊達な学風」であります。”

というお話です。

私はこれまでの教員生活で多くの学校の教育目標に触れてきましたが、「明朗闊達」であるべしという本校の目標にとっても魅力を感じています。

二つ目は「克己」（こっき）です。

中学高校時代に井上靖著の「あすなる物語」の中で出会い、とても影響を受けた言葉です。今でも思い出される、次のような一節があります。伊豆の湯ヶ島に来ていた東京の大学生が主人公に語り掛けます。

“「人より二倍勉強するんだな。二倍勉強すれば二倍だけ出来るようになる。」

大学生は殆ど独り言を言っているような調子で喋っていた。

「君、勉強するってことは、なかなか大変だよ。遊びたい気持ちに勝たなければ駄目、克己って言葉知っている？」

「自分に克って机に向かうんだな。入学試験ばかりではない。人間一生そうでなければいけない。」

克己とは何だろう。自分に克つ。その言葉の意味は十分に理解されなかったが、しかし、鮎太はこれまでに、これほど魅力ある言葉にぶつかったことはなかった。“

この「克己」は論語・顔淵篇にある「克己復礼仁と為す。」が出典です。「怠け心に打ち克ち努力すること」、さらにはもっと広く「自分の欲望、私心にとらわれないことの大切さ、後ろめたさがないことが人を強くする」といったことを諭した言葉です。

15歳から18歳は、身体的にも精神的にも大きく変化する、人生で最もホットな3年間です。大事に過ごしてください。目標達成に向けて、集中し、努力し、思いっきり打ち込む3年間で過ごしてください。

松蔭高校の高校生活、校風が皆さんの

「確かな学力を備え、明朗闊達で、多様な人々と協働して学ぶことができる健全で品位ある人」への成長に資することを心から願い、式辞といたします。

令和二年四月六日

愛知県立松蔭高等学校長 戸倉 隆